Pumpkin　2012 年 6 月号

June Bride in Russia

ロシア 6月の花嫁

6月初めのロシアは新緑の真っただ中だった。
トルストイの生家の周りの白樺林が初夏のさわやかな風に揺れていた。
凍てつく長い厳冬の大地。雪が溶けると春から一気に短い夏がやってくる。
若者たちにとって晴れやかな人生の出発へのベストシーズンでもある。

文・撮影＝清水　武　撮影＝内藤政吉

42

上：モスクワ大学の近くの森で新しいスタートを誓う。同大学の卒業生なのだろうか　下：モスクワ川の観光船から望むクレムリン宮殿。歴史の変遷を見つめてきた聖域が並ぶ

◎（あなた、そあスの会場へ急がなくっちゃ！）サンクトペテルブルクの教会主教会前で記念撮影を終えたカップル。◎赤の広場の出入り口。地方からのロシア人と外国人観光客でいつもにぎわっている。◎抜けるような青い空に白い雲が浮ぶモスクワの郊外。◎ロシアみやげの定番マトリョーシカ。ゆかた次々とサイズの異なる同じ人形が出てくる。◎モスクワ市内の森の白樺林。◎サンクトペテルブルクのエルミタージュ美術館とその前の広場

西暦6月、ロシア文学の取材旅でサンクトペテルブルク、モスクワ、ヤースナヤ・ポリャーナを訪れた私たちは、行く先々で新婚カップルの初々しい場面に出会った。ロシアには「ジューンブライド」の慣習はないという。しかし、太陽が輝き緑が最も美しい6月は新生活のスタートに最適なのかもしれない。約1週間の滞在で出会ったカップルは30組を超えた。

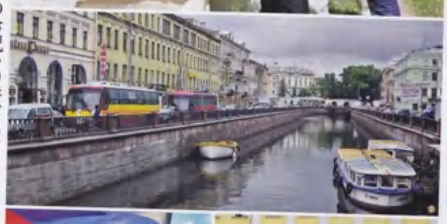
彼らは由緒ある名勝の地で、仲間に取り囲まれて記念撮影をしていた。私たちもその「撮影班」に加わった。「シャスリーヴァ！（お幸せに！）」同行の通訳から教わったお祝いの言葉

未来に向かって歩む

大聖会の中の森の一角

上：純白ドレスが新緑に映えて美しい　下左：祝ってくれる仲間たちと歩ける幸せ　下右：花子が集まるモスクワ大学

仲間たちのお祝いの呼びかけもほほえましく



●ハート形の枠から新郎に向かってシャボン玉を飛ばす。何人もの撮影班が取り囲む　●古都サンクトペテルブルクを流れる運河。街は「北のベニス」とも言われている　●喜びはみんなで一緒に。「空まで飛ばう」（幸せのジャンプ！）　●モスクワ川の観光船は地方からの出身者や若者たちに人気
©IMAGEMORE/amanaimages
（p.42、p.44、p.46ブーケ写真）

トルストイの生家の庭に咲く花

を投げかけると、ニコッとほほえんで応えてくれる花嫁もいた。「ゴーリカ！」。仲間たちが囃したてた。「ゴーリカ」とはロシア語で「苦い」との意味。つまり「苦いからもっと甘いところを見せてくれ！」との呼びかけだという。そんな声がかかると、カップルはひしと抱き合い熱く長いキスを繰り返した。周囲は「アヂン（1）、ドゥヴァー（2）、トゥリー（3）！」とその長さをカウントしていた。それを"撮影班"がカメラに収める。私たちもその後列に加わったのだ。少々堅い文学作品の取材旅に、思いがけず心温まる光景をプレゼントしてくれたのだった。